

平成31年度 一人一人の確かな学力のために

5年

		学年の目標	1学期末の児童の様子	3学期末の児童の様子
基礎・基本	国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の定着を図るために、ミニテストを月3回実施します。学期末テストで90点を合格として、8割以上の児童が合格できることを目指します。 自分の考えをもち、伝えられる児童を目指します。そのために、自分の考えをノートに記録する時間を確保してから伝える時間をとったり、小グループで話し合ったりします。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字4・5月のまとめテストの結果は平均正解率が6割程度でした。 「わが町ベストスリーをきめよう」では推薦するものを選び、理由を明らかにして全体に発表することができました。 小グループでの話し合いは徐々に慣れてきています。今後も話し合いを多く設定します。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字のまとめのテストは、まだ行っていません。ミニテスト合格に向けて、計画的に練習に取り組み、合格を重ねています。 小グループでは、どの児童も自分の考えを伝えることができます。また、読書科や総合的な学習の時間では、発表に向けて原稿を準備して、繰り返し練習することでほぼ全員が自信をもって自分の考えを伝えることができました。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算ドリルを活用して、既習事項の定着を図ります。繰り返し取り組み、必ず答え合わせを行って間違いを直す習慣を付けるようにします。 東京ベーシックドリルを活用して、4年生までの基礎的な学習内容の習得を目指します。9割の児童が80点以上獲得できることを目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算ドリルの答え合わせが丁寧にできていないことがあります。 東京ベーシックドリルの結果が8割以上だった児童は3割程度に留まりました。四則計算の復習が必要です特に小数のかけ算と小数のわり算の復習に取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中や家庭学習で繰り返し計算ドリルに取り組むことができています。その結果、単元末テストでは、7.5割以上の児童が80点以上を獲得できるようになりました。 東京ベーシックドリルの結果は、変化なく結果が8割以上だった児童は、3割程度に留まりました。引き続き、補習タイムを活用し、四則計算や図形の復習に取り組んでいく必要があります。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ローマ字タイピングがスムーズに行えるようにします。そのために総合的な学習の時間に、タイピングの練習にゲーム感覚で取り組み楽しく習得できるようにします。 国語の単元ごとに熟語を辞典を使って調べ、使い方や意味などの語彙力を伸ばすとともに、日頃から調べる習慣を身に付けさせます。 	<ul style="list-style-type: none"> ローマ字タイピング練習は始めていますが、慣れていない児童が多いです。今後も練習する機会をもちます。 ニュースや新聞の視聴、読書などに取り組みすることで、語彙が豊富になることが期待できます。また自分で調べた言葉は自身で使いたがる傾向にあり、定着しやすくなります。頻繁に辞書を活用するよう声をかけます。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語や総合的な学習の時間でプレゼンテーションソフトを活用して、発表資料を作成することを通して、ローマ字タイピングに慣れてきました。 文を書いたり、手紙を書いたりする際に、進んで辞書を活用する児童が3割程度に増えました。引き続き調べる習慣が身に付き、語彙力が伸びるよう、指導を続けます。
思考力・判断力	<ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を見出し、見通しをもって解決することのできる児童を目指します。そのために、授業の始めにめあてを明確にし、自分の考えを言葉や文章で表現できるようにします。また、授業の最後には、まとめ、感想を書いて振り返る時間を確保します。 自分の考えをもち、友達の意見を聞いて、考えを深めることができるようにします。そのために自分の考えをもち、友達の意見と比べながら聞いたり、話し合ったりするようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を見出し学習に取り組むことができる児童は、半数程度です。めあてをより明確にし、課題意識をもって取り組めるようにしていきます。 自分の考えを記録できる児童が一学期に比べて増えました。友達の考えも書き、考えの比較などができるように指導していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書科では、自ら課題を見出して見通しをもって解決することができるようになりました。他の教科でもめあてを明確にして学習に取り組み、授業の最後には、学習への取り組みを振り返ることができています。 自分の考えをもつことができる児童が8割程度に増えました。友達の意見から考えを深める良さにも少しずつ気付き始めています。引き続き、学級全体や小グループで対話しながら学び合うことを通して、考えを深められるよう指導を重ねます。 	
学習習慣・学習規律	<ul style="list-style-type: none"> 話すこと・聞くことの大切さを意識化させるために、聞いている人の方を向いて話すこと、相手の話を受けて話すこと、話している人の方を向いて聞いたりメモを取りながら聞いたりすることを指導していきます。 家庭学習時間を毎日75分間(15分×5年生)取り組むことを目指します。また、自主学習を励行し、自らの課題を考えて取り組むよう声を掛けます。 	<ul style="list-style-type: none"> 話すことには積極的な姿勢が見られますが、聞くことに課題がある児童が3割程度います。国語の「聞く・話す」の授業だけでなく、日常的に人の話を最後まで聞いたり、要点を落とさずに聞いたりできるよう、あらゆる場面で声を掛け、指導を続けます。 75分の家庭学習を達成出来る児童が7割程度です。家庭学習への取り組み方を一緒に考えることで、習慣化を図り、内容の充実に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 話している人の方を向いて話を聞くことができます。相手の話を受けて話すことができる児童も増えてきました。引き続き大切さを伝えていきます。 75分の家庭学習を達成できている児童は、8割程度です。自主学習の内容も工夫している児童が増え、繰り返しドリルや自分の課題を解決するため(百人一首、実験、疑問解決等)に取り組んでいます。ご家庭での声かけをお願いします。 	